

## < 館長報告 >

館長 土井 承夫 (どいよしお)

早、2月如月(きさらぎ)に入りました。「衣更着(きさらぎ)」とも書きます。これは未だ寒さが残っていて更に重ね着する月という意味です。旧暦で「和風月名」と呼ばれる月の和風の呼び名です。これは旧暦の季節や行事に合わせたものですが、現在の季節感とは1~2か月のズレがあります。

- (1) さて、まず今年度の役員人事に関して私が兼務となっていた体育部長を次の様に変更しました。

### 2020 年度 福庭自治公民館 体育部長 (任期 2 年間)

<変更前> 土井 承夫 (館長と兼務)

↓

<変更後> 谷本 裕剛 (11 班、過去通算 8 年間の体育部長経験あり)

\*館長からの提言~前向きに引き受けて下さり感謝しています。

一緒に福庭自治公民館発展のため頑張りましょう!

- (2) 福庭自治公民館新築スケジュールに関して~

### 公民館新築計画の今後の予定について

- ① 2020 年 1 月 18 日に第 6 回建設推進委員会を開催しました。

<今後の工程について>

3 月下旬 コミュニティ助成の決定通知 → 5 月 業者の指名入札 →

6 月 解体作業の着工 → 7 月 新築工事の着工 →

→ **11 月末 新公民館の完成**

(3) 強制ではない自主的な新築のための寄附金に関して～

### <福庭自治公民館新築特別寄附金（自主的な寄附）の集計状況>

住民の皆様からの上記の自主的な寄附金の集計状況をこの後もこの館長報告でお伝えしていきます。ご寄附は新公民館が完成する本年2020年11月30日まで受け付けます。受け付け窓口は館長の私、土井承夫です。**(26-0770、携帯080-4261-1979)** お電話を下されば、ご持参いただかなくとも私が戴きに参ります。

\*令和2年(2020年)1月31日(金)現在の集計結果(総計)は次の通りです。

(1) 寄付頂いた世帯数： 139世帯 (全体の約50.7%)

(2) 寄附金の合計： 454万円

(3) 個々の寄付金額の概要：最高額：30万円(1名) 30万円(福庭青年団) 25万円(2名：1名は福庭、もう1名は福庭以外の方です) 10万円(13名) 5万円(10名)、3万円(20名)、2万円(12名)、1万円(79名) 他

<特記事項>今回は福庭青年団から申し出があり、1/19の青年団総会で特別会計の残高から30万円を新築の寄附に充てると決定したとの報告を団長の市村 誠さん(11班)が拙宅に来て話されました。館長としては感極まりましたが有難く頂くことにしました。(上記に記載しています) 尚、**新年度の青年団長**には11班の谷本 裕剛さんが選出されました。

### <館長の行動日誌> (1月分)

1月2日(木) 令和2年度の福庭自治公民館定期総会が開催された。

事前に回覧した議案書の内容は何点か変更箇所がありましたが基本的に全て承認されました。(別途報告済)

1月9日(木) 福庭老人会の「福寿クラブ」の新年会が福庭公民館で挙行された。

会員約50名の内の半数以上の参加を得て盛大に壮年パワーが炸裂した。

1月10日(金) 波波伎神社の祭事「恵比寿まつり」(通称：えびすさん)が同神社で

厳かに行われた。大阪で有名な「えびすさん～笹もってこい!」と同じ商売の神様「えびすさま」がこの波波伎神社の祭神でもある。かつては大勢の氏子たちで賑わったそうだ。

1月13日(月・祝日) 河北中学校 福庭生徒会 総会を福庭公民館で開催した

これは福庭子供会の中学校の部のこと。本年度の責任者（会長）は9班の門原 直美さん。同会の大きな行事は7月に行われる「レクレー ション（勉強会）」で生徒たちの輪に親も加わって宿題に取り組んだり生徒の悩みなどを聴いてあげたりする。

- 1月14日（火）** 福庭公民館のとんど祭り「とんどさん」を公民館で開催した。今年も昨年に続き女性有志 4人による「豚汁」を振舞った。田舎のいいところだが、材料はできるだけ自分の家の畑で採れた白菜や大根などをネコ車で運んできた。だから100食近く配っても最終コストが5千円を切るという都会では信じられない金額だった。やっぱり福庭がいいなあ!
- 1月15日（水）** 倉吉市社会福祉協議会の2月2日予定の小地域活動発表会のリハーサルを同協議会（福祉センター）で行った。発表者は国分寺、秋喜新町、福庭の3自治公民館長～私が行う福庭の発表はパワーポイントのスライド15枚によるもので最後の4枚は福庭の活動を音声付動画で表現する。主な内容は「住民負担ゼロで新築する福庭自治公民館～70年の悲願が今年実現!」と題するもの。私の発表は14時～15時の間の15分
- 1月17日（金）** 昨年12月1日付けで、私は福庭・福庭東担当の民生委員の役を拝命しました。この日の午前中その定例会が上井公民館であり、上井地区の民生委員と民生児童委員が一堂に会しました。民生委員・児童委員は労働大臣から任命される国の役職です。その日の夜、水明荘で同メンバーによる新年会が模様され皆様と楽しい時間を過ごしました。なお、上井地区の会長は長年その任にある一丁目東の上野忠義さんです。噂通り「人徳のうえの」を感じる方で一丁目東の公民館長でもあられます。
- 1月19日（日）、20日（月）**～昨年11月に福庭老人会の重鎮の皆様からの熱烈勧誘によって入会した「JA年金友の会」主催の「ほのぼの旅行（1泊2日）」に参加した。今月始まった大河ドラマ「麒麟（きりん）が行く」の主人公、明智光秀 ゆかりの場所をめぐるツアーで丹波篠山・京都府亀山市の湯の花温泉「溪山閣（けいざんかく）」に宿泊、三朝温泉の「溪泉閣（けいせんかく）」と間違えそうになり一瞬ドキッとしたが楽しいカラオケ宴会となった。（私が歌ったのは松山千春の「長い夜」だが、初めて6班の野一色利忠さんからお褒めの言葉を賜った）翌日は光秀の首塚がある「谷性寺（こくしょうじ）」→、縁結びの神様「出雲大社」の先祖であり格上の「出雲大神宮」を参拝→最後に光秀が築城した「福知山城」を見学して帰途についた。今回の旅行であちこちに「麒麟が行く」の「のぼり」が立っており駐車場もたくさん整備され、大河ドラマの地となるとこんなに経済効果があるのかと一種の驚きとも似た気持ちになりました

た。

1月21日(火) 福吉町(福祉センターの近く)の「和江の部屋」で月一回行われる「ウィーンの森の音読会」に参加。人生の諸先輩方に交じって前回より「日本の叙情歌・懐かしの流行歌」の歌唱指導を任され、いつしか「音読会」から「コーラスの会」に重点が移りつつある。

1月25日(土) 子ども会(小学校)の総会が公民館で行われた。本年度の責任者(会長)

は8班の竹部 晃さん。総会后、竹部君が拙宅に来てその報告をしてくれたが「特に問題はありませんでした」との事〜どの様な報告でも構わないので他の会も私に教えて欲しい。「補助金の出しっぱなし」で

フォローしないのが一番いけない事だと私は思う。

1月26日(日) 佐渡 裕 指揮、兵庫県立芸術文化センター管弦楽団の演奏会を「とりぎん文化会館梨花ホール」に聴きに行った。3人の息子の中で唯一人クラシック音楽に興味のある長男と一緒に聴いた。演目はベートーヴェンのピアノ協奏曲5番「皇帝」と交響曲3番「英雄」の二曲。佐渡さんが最初に「このピアニストの評価は真っ二つに分かれる」

と前置きしただけあって私としては何か浪花節のような演奏に聴こえもっと普通に弾いて欲しいと思った。会場へ向かう車の中である世界的ピアニスト、バックハウスの極上の皇帝を聴いてきたのがむしろ仇(あだ)になった。

この二曲はどちらも「変ホ長調」で描かれている。この「変ホ」とは「ドレ

ミ」

の「ミ」の鍵盤(白鍵)の左隣にある黒鍵(こっけん)を「ド」として演奏する調子の事。私が夏祭りの「館長サプライズ」で行うピアノ弾き語りのほとんども、この「変ホ長調」(ドイツ語でエス・ドゥア<Es-Dur>)で、これは人間の話す声域に近くベートーヴェンが好んで作曲に使った音階です。今年はいよいよベートーヴェン生誕250年であり世界各地で彼の音楽が鳴り響きます。

以上

## ～ 館長のちょっと一服コーナー ～

### ♥ 幸せって何だろう？ ♥・・・猫（ねこ）の教え・・・

昨年の末、JAF（日本自動車連盟）の会員になった。万一の車のトラブルを考えての事だ。その後、会員誌である「JAF メイト」という雑誌が毎月送られてくるようになった。「メイト」というのは「クラスメイト」から分かるように「友達」という意味）その今年1月号の巻頭に題記のエッセイが載っていた。その要旨は次の通りだ。・・・「幸せとは何かと考えた時、最初に思い浮かんだのが猫のお腹（なか）だった。“ブライモーディアルポーチ”と呼ばれるあの柔らかいお腹、下腹部のやや皮が余って触ってみると温かく、少しふたふたしている部分、そのあったかくてやわらかい猫のお腹を触ると理屈ではない幸せを感じる。」更に「猫は基本的に自分勝手だ。自分のやりたい事をやりたい時にやる。気分が乗らない時は甘えてこないし、逆に甘えたい時にこちらが構ってやらないとへそを曲げる。お腹が空くとすり寄って来るくせに、いざエサをやると途端に人間の事などどうでもよくなる。このワガママさが、猫に惹かれる理由だ。猫は自分に気を遣わないし猫が自分のそばに居るのは、仲間にしてはデカイ二足歩行の生き物と一緒にいてやってもいいと思っているからだ。それ故に、自分は猫といるとお互いに気を遣うこともなく自分が自分であることを許された様な気持ちになる。誰かと一緒にいると、すぐにたくさんの事が心配になったり、迷惑を掛けていないかとか、不用意に傷つけてしまっていないだろうかとか、そんな事ばかりを気にしてしまう。猫の様に自由に生きるなんて事は自分には難しいがそのワガママさを見習うべきかも知れない。少し凶々しいほうが猫も人間も幸せになれる、そんな気がしている」と・・・・・・要するに「お互いに干渉せず自由に生きた方がそれぞれが幸せになれる」と言いたいのだろうが私、土井承夫はそうは思わない。

「世話をやかれている時は確かに鬱陶（うっとう）しく思う事もあるが相手に世話をやかれたり、気にしてもらっているうちが華（はな）だという考え方もあると思う。簡単に言えば親や家内や兄弟に全く気にされなくなったら本当に幸せだろうか？うるさいと思うくらい世話をしてくれた奥さんや親が先に逝ったら、それこそ落胆の底になるのではないか。けんかするほど仲が良いと言うし、切磋琢磨（せつさたくま）の議論をするから深い友情が育（はぐく）まれるとも言う。～まあ、結論的にはその中間どころが「幸せのありか」というところか？

以上

<お詫び>昨年 12 月の「行動日誌」を忘れて居ないかと思われる方もいらっしゃるでしょう。実は昨年末、突然、私のパソコンが壊れて（倉吉の方言で「めげちゃって」）しまったのでかなりのデータが消失してしまいました。そのため 12 月の記録も消えてしまいました。Windows 10 の新しいパソコンでしたが、「百万ボルト」のエンジニアからは「毎日何時間も使いすぎる人の場合、ケースとしては少ないが時たまこの現象になる」との事。これからは少しパソコンにも休養を与えようと思っています。